

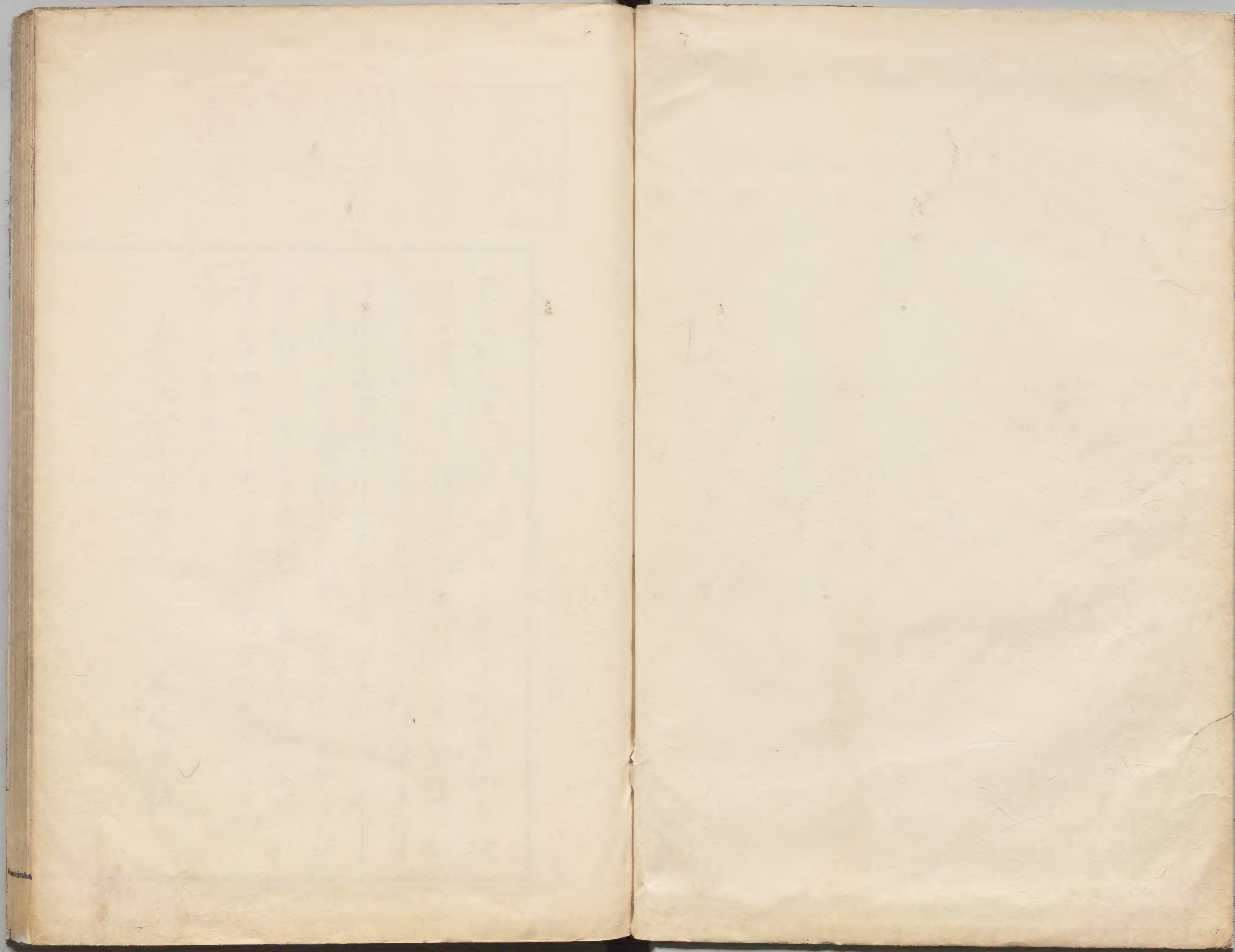
落葉抄 下

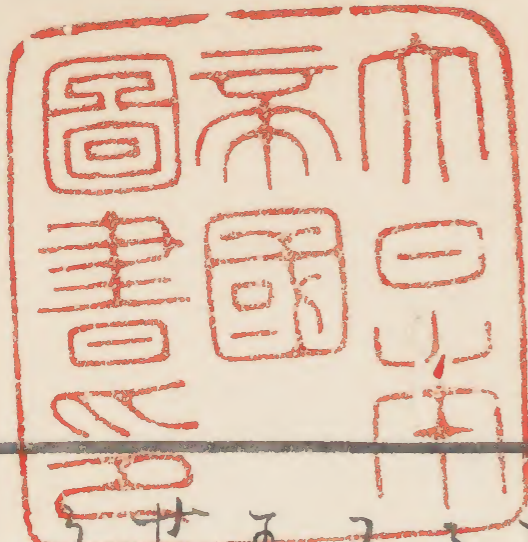
和書門類	四三四二號	一三七函	一四架	二册
------	-------	------	-----	----

和書類	四三四二號	二册	一四架	一〇函
-----	-------	----	-----	-----

内閣文庫	
番號	和 43442
册數	2 (2)
函號	264 300







此の書は翁の人乃もとめふよりして年々其の
 なる言は葉の種世に廣くはされるを姑く其の
 たるの垣内はより考へてててててててててて
 するも亦不ひちやうせはしてはをわかく心ゆく
 するなりたる形はひろひのこせる末のゆゑも多
 かるべしとそとそとそとそとそとそとそとそと
 するなるなり—の心の花れをもめりててててて
 するなりとそとそとそとそとそとそとそとそと

嘉永四年十月

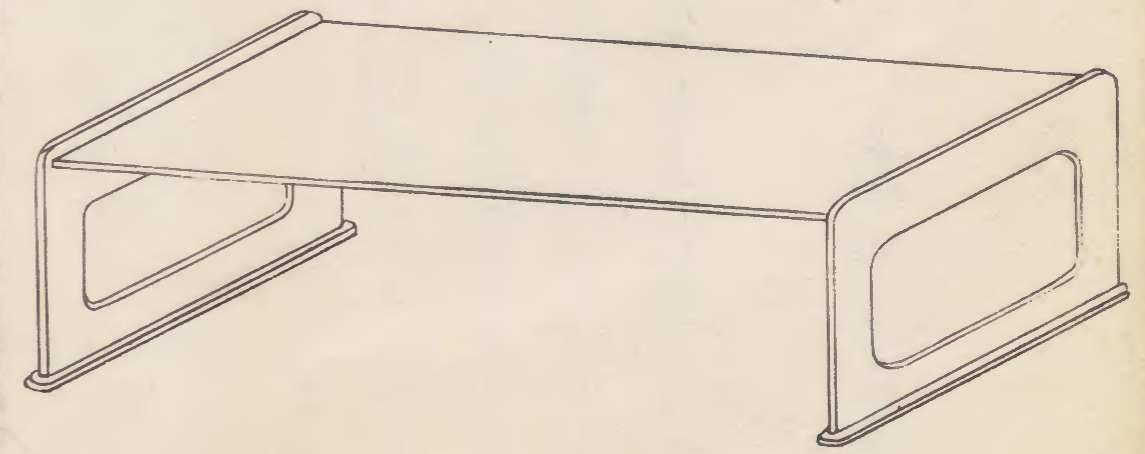
本居豊穎

明治十三年購求

六一〇七番

本居氏藏 ○此中有之ハ懐帛

此はらゑとあつた和らゝゝ
ほかにふゑとあつた和らゝゝ
又七十といふとあつた和らゝゝ
毎年うらゑとあつた和らゝゝ
れるゝとあつた和らゝゝ
ほらゝゝ
年次経ていぬつゝゝ
ふゑとあつた和らゝゝ
ほらゝゝ
寛政十二年四月 宣長



大 一

本居氏藏

堅物

真直ちのる 大平

や海やこゝろ後

まねひてを

神の海とての

道を

ゆゑ
ま



本居氏藏

今幸寛政十二年正月三日大人に御ふりし事を大言ふゆり給ふ
大人の御身ちかきまじ給ふむ相を何ふまねたるか給ふむといふ
くれいふたふまて此れをいふまじりて京に相まねひて
おひしまし、ちと作らぬ給ひてそのあやうに平也世あまのり
何ひらぬくれまじいふまじり給ふむ相をいふらぬおひ
めくせとこれらういふ漢やまじり百のいふまじりよみまじ
るつゝ給ひ考へ給ひてその書のまじりかきいふらぬ給ひ天の下ふ
美代ふ大なる功をいふ給ひかきいふらぬ物をおのれいふ
給ひらぬいふまじりあまの幸やをいふらぬいふまじりあまの
いふまじり給ひて此れをいふまじりあまのいふまじりあまの
よみてその給ひて又ういふらぬいふまじりあまのいふまじり
年を給ひて百のつてもいふ大人に御ふりし事をいふまじりあまの
大平

竈山社藏

男建れ神世の御聲
所念て荒風は氣之
伎竈山の松 宣長
彦五瀬神の命は遠
御代の古事志ぬふこ
れのか麻夜麻 大平

田淵氏藏

神祇官 大平
天地に神は
つらふる神つら
百に官のは
めふを
おく

鳴氏藏。

世に人のやいひをさ
むる醫師の薬は道々
大穴年遅少名昆古那
の神こそはしめましけ
れ阿やおくもふたの
もよ三柱神の免くもて
くもあやまかもと

平大平
謹詠書

青霞堂藏

神領村

海神の御社の二まふか
さうらう松をさて

神と君ささうゆる海世を
二まふかをさるさうらの
松をさうた

池尔谷のちうれいさて
流川のちうれおちるふ
池まねを神をさうさ
うらてやまむ
里名を神の御志めの
内とてまむ民をさ
ちけくさうさむ
本居大平

横物

大三

此色紙の給えそり宮の神寶のよ
そひのきぬあねもしけうれを
る所ふそんけり清き新ふおろし



高倉山

秋毎の水橋の橋を

ほむさうのかまも

あし

くぬらうの山

大平

高浦氏藏

色帛形

野澤氏藏

消息

野澤氏藏
 消息
 大平

野澤氏藏
 消息
 大平

秋津氏藏

のほめふ
よめふ

草もももあつらぬゆき
ふーほとふ又ゆきつと
善そ其ふけ

人やは七十七のまの七
ちのぬいむおいふ

大平

。

御園生乃梅
能本都延平
吹風尔小簾
乃寸雞吉由
花能香通布

大平

吹上寺藏

大五

緑岡藏

早春祝

天此下事なき

清世を兼代也

そつちこそふ

いふふり

大平

試筆

おいんそいく初まらう

けふこやふおな

ことまふ千代の忍の世

なふそつのもつや

うへおひのち

けふあき

秋のをさ

天保二年

南

服部氏藏

野際氏藏

全帛

多年翫梅

春毎尔をらそそをうさせお代まで
おいそそた梅の花はさ

大平

平松氏藏

△

歸鴈

百子き花ふさつる春一とわれ
いよそやうらる鷹や何ちる大平

大六

胥樂葍藏

半切

春風

是りのけふわいささ神尔
ふく春風ののささあさの
大平

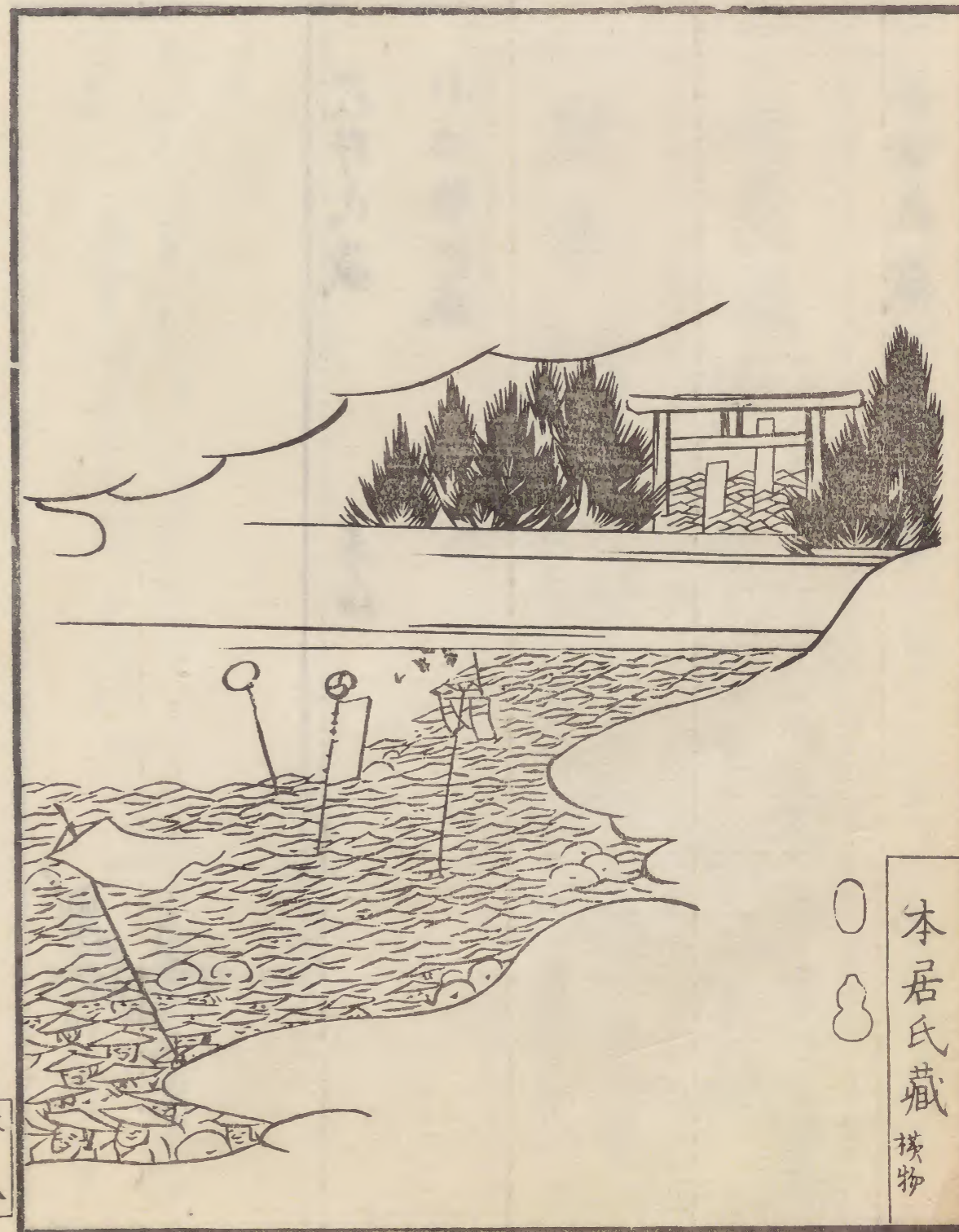
桂萃堂藏

同



おい人とこやふたるやわらうる
春節のさ葉うとつとけし

大平



木梨氏藏。

既花

大平

笑ふも

中山の春ふ

花よりの好ま

都人の好

名所花

雪の白くして弱や

なるまむ

白妙糸

糸屋のまゝ土は

山さうじむ

大平

森本氏藏。

天九

細田氏藏。

夕花 大平

まさるらむ

あつらひのうらむ

あつらひのうらむ

花ふあやうらむ

あつらひのうらむ

三月三日

はるの初めおけけしむ

のむ人も下てむ

桃の山は海ふ

あつらひのうらむ

大平

野澤氏藏。

打靡く春去来れし朝ふて馴鳥来なり夕糸を
 霞棚引物とやふ樂しうねやと櫻花咲の盛
 くと又東ふめぬ一かたけの風流士は思ふ友を
 しあふ雁のつらねやとねひ昨日はと野途ふ遊
 はひ今日ほと山ふらとふと夕星流かゆきかく
 由記様花見の遊ほく樂しうねやと

平意富比良

平松氏藏

絹地豎物

世壽堂藏

絹地極彩色

春ふらうた

日長記

ころめ

きさひあや

つらそめけむ

心もや

縁れ形

大平



桃廼屋藏

△

皇建君の皇徳の
 別業のそめ
 花見ふまのりて
 志るを様とはや咲ふけり大平

春もれもつらきわさるる若草の
真若の浦間はけやし嬉うもる巻
白珠の玉津島根も磯見も岩神
を備浪よもる渚と清し並多て
る松の本まもま十鏡見あほし
浦友無て事つ遊ばひおとしろ
やんつしをれも東の世向津

天十二

岸由久方の月も出まぬ此ゆへ
遊ふ志さしつらきあふのちるま
ふまふをちころの松の本まも浪
よもるこれの渚とまさやのふり
こそやれ秋の夜もかくこそあり
けれ真若の浦間

六平

上街氏藏

横物

楠はまらら建雄の橋は朝臣の
君はまのわらわのいとは
と天地ふくひあやめ遠
つ代の大詔命ふと古は歌ふと
よえる海由らはみつくかは
弥山由りて草むをうはる



産せ□□

天皇の命ふくもちぬえか目みせしやいふ古言を
此君は天皇ふはまらびる真心ふもはらけい武士の
こやもまら雄のゆけき鏡や楠の奇しきまらふ海わら
をまはめかきしつるき大刀やきし心の御いささ
くゆいと橋の香くはら君やまら金とらめやら
えや

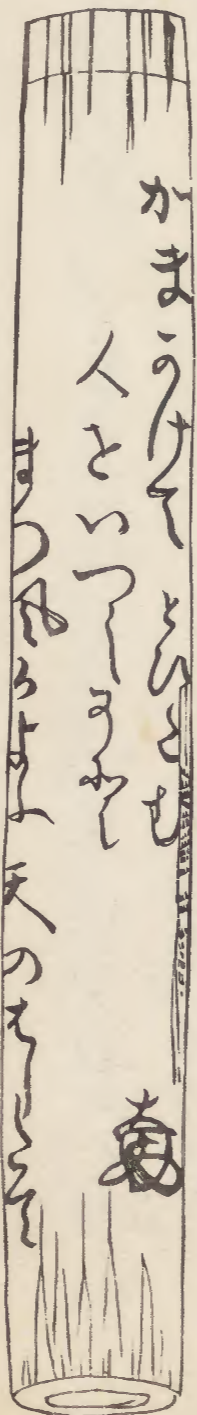
平松氏藏

半切

平大平

大十三

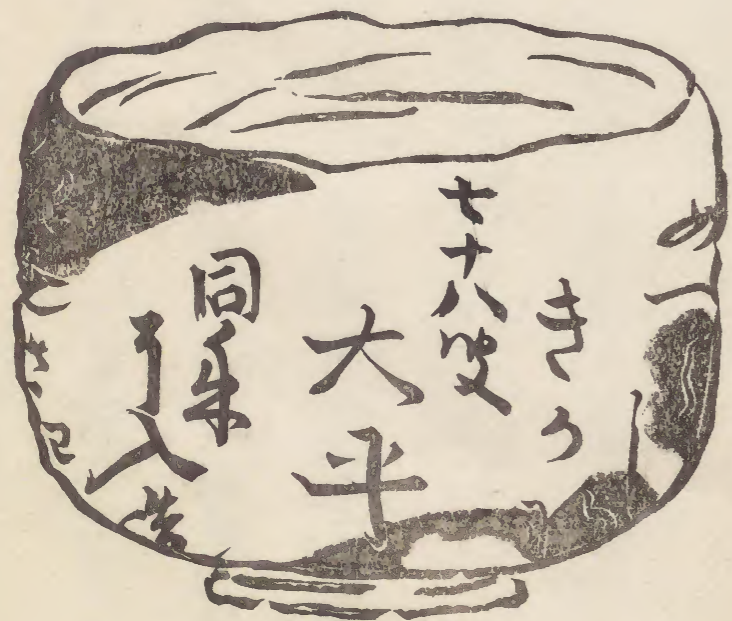
安田氏藏



かまうけとむとせ
人とつてまや

まのちりて

花ととせ
のみちとせ
のみちとせ
深くまはあめ
つとまうね



七十八
大平
同年
入

武部氏藏

△

露葉のちもかたきぬる葉の
たのしみさうくさるるも大平

中島氏藏

半切

日哉ふいふ松のの葉ののちから水の音のきこし

大平

船中

夏月

きのたを舟きしを月とつ
ふひさるるゆも此浦つと大平

小池聴松藏

△

大十六

中島氏藏

横物

ふふのたのみの葉のた

~~~~~

~~~~~

~~~~~

大平



景文

花下會友

さく花を思ふ友とちりひひりなみかみかみかみか

竹亭納涼

よるそ夏をよる好竹垣秋風ゆる庵のまじり

會友見月

糸考してる和月を秋津島を好き世の光好む

梅告春近

をまきねときふふふふふふふふふふふふふふ

春松契齡

春を絶て去る人なき松の祀さく十之このははら

梅

桃廼屋藏

堅物

六十七

水のふかきん 大平

このねくうめやせ

あつあつあつあつ

あつあつあつあつ



庫藏

桂花堂藏

半切

葵

宮人とも大言人も何あひあ  
かきしつやふああああああああああああああ

平松氏藏

△

喜多川氏藏。

五十鈴川  
八百五十年代の  
君の世を  
弥遠長来  
まもる水垣  
大平

高松氏藏

あ  
稲の  
ハ束  
さう  
伊代  
いそひ  
大平

大十八

本居氏藏。

酒壽

御園生れ園の植竹風ふけ  
そよひきりおほき風ふき  
さかおやちひはあき  
草ふ取て神世よと何そひを  
らもものほほ舞けし  
豊ほきう謡ひ氣く  
まの釀待酒今日此の  
樂まを中このほほ  
くまひさよあ  
佐々  
大平

あ  
まほく  
あまの  
見さう  
かふるの海

の湯

大平

有竹居藏。

やまをまね

加茂の

川浪

あまのらそ

はけしき

あえの

山あろ

あね

魚

小池氏藏

撲物



極彩色

六十九

木梨氏藏

吹上御殿よ本居氏をまねて  
源氏のものかたがせせしめ  
しむひをまねてまねてまねて  
てむひのつたおもろくつら  
なまねる 松原をまねて  
よは波のきりあはぬ  
あねもまね吹上りよは  
濱みまの風

大平

本居氏藏



舞の呂おのまね海  
はあらいん けうめ  
るこおのあふも  
月の桂の殿ふか  
らむ  
大平



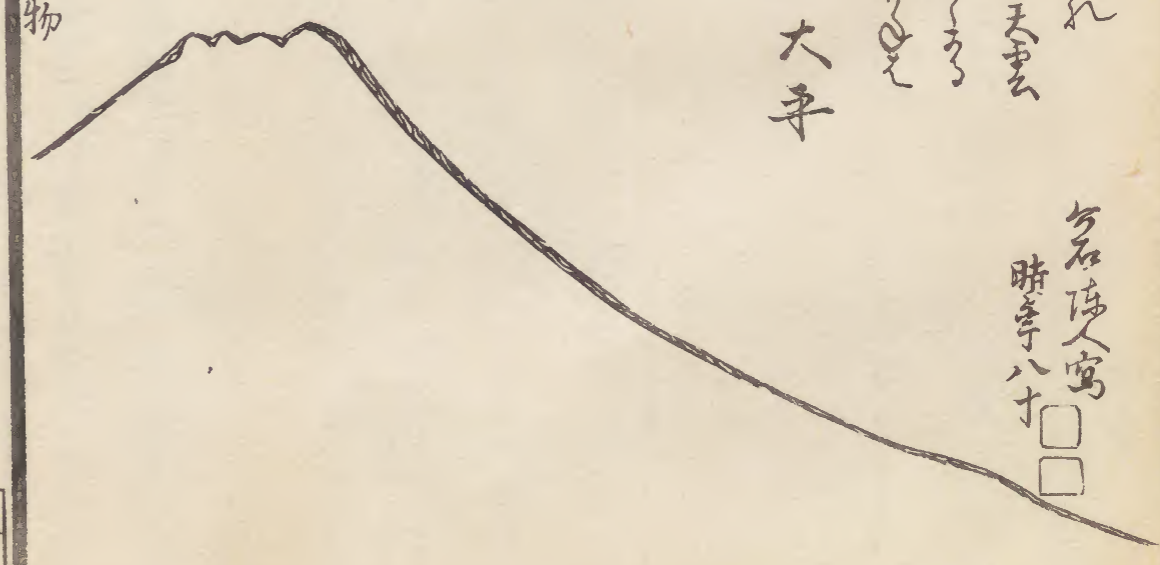




風の香は遠く清代よ  
 うへへこそ入る今やわしふ  
 かうつれいひつれけり  
 駿河守の不盡の高峯  
 こそ其の系ふらひとさひかた  
 やあやととひととあやうと  
 事と本とまじりては神  
 を備へてさへ貴く云  
 といゆれとさうり時自  
 今昔をさあつてける  
 その事さのよわひく  
 うさしとたうてふ  
 ことれとさあつて  
 その事さのよわひ  
 あつてさあつて時  
 自久ふふんや  
 とらひのや  
 不盡さ  
 衆と

森氏藏

横物



まのつらふれ  
 やとあつてさあつて  
 といゆまはさう  
 ふしのあつて

大平

方石屋  
 晴寺八十

天世二

小池聽松藏

七月  
 七日

あつて山天の川はゆふもか  
 ふなをかさしもかちのささこゆ大平

福山氏藏

半切

秋の野の花  
 ちとさふ  
 萩のゆふ  
 ちとさふ  
 大平



癸酉夏五月  
 寫于矢野坊  
 寓居

三坂謙

沼野氏藏

初雁

雲をききて月の光をたしむるに  
こはるゝとてゆくみちのまの月大平

西田氏藏

初雁

少女等のお申たむのわせをたしむるに  
けさめつりしちかたてまふけを大平

山村氏藏

半切

わづらひしれはふ 大平

まのそねらう

あそびたるに

時とちふふ

まのそねらう



葉庭寫

大世三

中嶋氏藏

秋日詠重陽宴歌

平大平

咲菊も早うや  
まうふ雲上ふむり  
巴市一河ふふの依  
か都幾

吾屋戸能垣  
内乃茅子乃  
花盛佐迦理  
須具尤受見  
余來吾勢古

有

萩園藏 大。

有竹居藏

東福寺の黄葉をりて

大寺の此をりてをりての山の洞ふふとみ  
ち葉をとるとと少女うらととみおのわ  
かくらき髪をとよ梯とて巻上よるひ紅  
の袖引つゝぬらゝるのされをりてとみ  
るふと少女の面ふ少女寺の丹の穂の面も黄葉  
み本のもやとてれい大寺の此山は洞一あや  
ふよる一も

大平

大竹四

山家秋夕

大平

あさゝぬ葉の中あられ  
そとふゆもくぬれあ

紙糊庵藏

山紅葉

山向山神の  
白ひけの錦や  
ふ代経で  
もえぬ秋の  
もみちる葉  
大平

三松亭藏

詠叶



小池聴松藏

△

志くれ

笠もきいぬしせちも打らぬ  
むらしの髪を志くれぬ大平

織部藏

△

殘菊

秋をおきて菊の明るも香のけ  
ひとめくれぬ菊のまりぬ大平

三松亭藏

△

爐火

ふくまてうちあまひて思ふも  
よるもよる埋火のもや大平

天井六

藤園藏

絹地堅物

かきくぬ

もるも

道き

んのやとぬ

香けさ

春波あやる

大平

讃右ニ記ス



徹山 □

主日丹吉奈良の宮ふ  
 天の下ち〜〜〜け  
 天皇の神のみことの  
 御心と〜〜〜ま  
 朝家吉世紀の國の玉  
 津島そのふつ宮ふ  
 ま〜〜〜ま  
 て鳴心を見わ〜  
 けの浦破を〜あ  
 き〜〜〜若水浦や  
 名ふふ〜ふ明ら  
 けき光の浦を〜る  
 美く〜〜〜ぬ



大北七

一〜〜〜  
 けの浦ふ〜〜〜れ  
 二千代を〜〜〜か  
 何〜〜〜あ  
 つねの浦つ〜清〜浦  
 本志ほ〜〜〜海  
 よ〜〜〜波のやち〜  
 本ゆ〜〜〜の  
 万〜〜〜山  
 本ゆ〜〜〜の  
 名〜〜〜の良

七十五の羽  
大平 編者

横物  
本居氏藏



今やうけ歎

昔の君よひも 世にやれど  
さふねをたれ 山にやれど  
さうらひぬり 雲にやれど  
さうらの花を 嘆きやれど

大平

本居氏藏

君は六前ふとていひて

古事記きよみやをたつて  
まつりなつていふよみて  
くめてまつりな

昔の君の御前ふ古事記  
御書よみせくたのかい  
神の世の神のついで古事記  
君の御前ふよみと記まをた

大平

同

天北八

幣舎藏

豎物

今めき

大平

その世にありて

ありあけり

今の世も

いまやありて  
形む



小出氏藏

豎物

今見ま

おのそらうら

名おおひ

慈ひ少女の

あそふ

こころを  
花

大平



注稿月岡雪齋藏画

○ □

極彩色

寄巖祝

はくね石のなほ巖の  
苔の上も松さへけし  
花のさくまへ  
大平

紙糊庵藏

全帝

天光九

長流翁 東磨翁 真淵翁  
契沖阿闍梨 民子 宣長翁



本居氏藏



自餘展觀目錄

契沖阿闍梨富士經冊

小信務田信美

一系

東唐翁肖像

交反亮唐按寫  
大平翁贊長歌

一幅

真洞翁肖像

延長亮唐按寫  
大平翁贊長歌  
所別之歌

一幅

同翁長歌全紙

同詠葵系短冊

同消息

同欽菜北歌津切

宣長翁贊長歌

内山真龍臨寫  
係書也

人丸像古馬

一幅

一卷

一系

一幅

一幅

目一

同新室祝初層懷紙

一幅

同攝画色紙歌

一幅

同白帶玉指笥莊本

二卷

同石上私淑言

三卷

同皇代系圖

一卷

同系系

卷壯一

同伊勢物語古意出入

卷七卷

同字籍類并出入標記類

如種

大平翁旭色贊長歌

猶地大核物  
恒吉内記卷

一幅

同翁天漏宮神像贊

堅物

一幅

同雜拖画贊 壁物

同長生画 半切

同山法画 二幅

同松歌全紙 大十二幅

同扇画贊 預地

同詠交川懐紙

同陵王歌懐紙

同贈花長歌

同富士歌大懐紙

同舊雜色紙画贊 宜古雜紙

目二

同吹上水演蓋貝書合本古法紙歌

同技抄之也之孔

同真衣并歌杖

同承言名古學者短冊紙

同消息紙

同張交屏風七十六種姓名略之

同居春庭翁吉野山長歌 出稿紙自筆

同德女貴女親柳画贊

同葉画贊 あや女画

同居建正備喜長歌

同色紙短冊張文 一幅

同清島初春歌 一幅

同色紙張文 一幅

同門中懷紙色紙短冊未許多略之

右本居氏藏

宣長翁筆策長歌 一幅

同横物 寛政七年  
日前宮中よりとある長歌 一幅

大平翁懷紙 梅葉凡紙 一幅

右紀國造家藏

真淵翁 奉田安君長歌 一幅

目三

同 門中十二月の歌自草 一卷

同 兼子歌短冊形 以上巻袖共一箱  
安藤表麿極去 一幅

東磨翁詠晴天陽居懷紙 一幅

大平翁松浦館長歌 一幅

右双松彦藏

大平翁懷紙 川月歌 一幅

同贊 猶地牡丹画 一幅

同短冊 山家管乳 一幅

同色紙 玉津宮乳 一幅

同懷紙 都月乳 一幅

右桂葉畫藏

東唐公相三首懷紙 古紙歌

一幅

右三松亭藏

大平翁嵐山画贊 横物

一幅

同詠多葉懷紙

一幅

右晉市唐藏

宣長翁懷紙 贈山語表長歌

一幅

同懷紙初春七首歌

一幅

大平翁表之龜山贊長歌

一幅

右綠岡藏

一幅

目四

大平翁弓長歌

一幅

大平翁多葉法高色紙短冊 弓歌

一幅

右小田氏藏

宣長翁短冊 冬晚歌

一幅

同文章

梅の巻君

一幅

同色紙

連口色歌

一幅

同飲恩賜歌

一幅

真淵翁消息

三月古句文

一幅

同 消息

古今集歌入

一幅

東唐翁懷紙

秋歌古歌

一幅

同短冊

風書秋便紙

一幅

大平翁懷紙

九月十二日紙

一幅

同山法師画贊

一幅

同五言句画贊

一幅

同詠時秋物語意歌

模物

一幅

春庭翁句筆懷紙

海老紙

一幅

右中島氏藏

貞六翁

淡弓山北洞 模物

一幅

右戸田氏藏

大平翁懷紙

子日紙

一幅

目五

同葉長歌

模物

一幅

同懷紙

五紙

一幅

右志賀氏藏

宮長翁色紙

四季歌

四葉

同短冊

鞋紙

一葉

右木梨氏藏

大平翁全紙

楠公紙

一幅

貞六翁消息

三入

一幅

大平翁懷紙

杉紙

一幅

右新園藏



大平翁短冊 橋本氏藏

一枚

大平翁子短冊 橋本氏藏

一枚

紀國造三冬大人短冊 橋本氏藏

一枚

右西田氏藏

大平翁短冊 橋本氏藏

一幅

大平池氏藏

大平翁全紙 橋本氏藏

四幅對

大平翁画賛暨物 宇山冷徳古画

二幅對

右玉臺氏藏

大平翁芳野山古紙 海草

一幅

目七

大平翁短冊 橋本氏藏

一幅

大平沖阿爾梨色紙 有百山紙

一幅

右和田氏藏

大平翁短冊 橋本氏藏

一幅

大平翁賛 橋本の画

一幅

同短冊 橋本の画

一幅

右山村氏藏

大平翁並教子中書合書

一枚

右彼部氏藏

大平長翁 初書 橋本氏藏 二書 紙

一幅

大平翁懐紙 本紙

同 懐紙 本紙

右松村氏牋

大平翁画賛 義絶画賛物

右児玉氏牋

大平翁賛 雜画

右覚象寺牋

定長翁短冊 本紙

右長平氏牋

大平翁懐紙 少長平氏紙

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

目八

同 懐紙 建内宿禰長歌

一幅

定長翁書翰 五通

右森本氏牋

真洞翁懐紙 落筆紙 若の根の

一幅

同 周扇形 和弓浦紙

一幅

同 懐紙 不二紙 正しく札

一幅

同 肖像 西女屋書翰 髪大平翁

一幅

同 半切 本紙

一幅

勢冲阿闍梨短冊 本紙

一幅

同 短冊 本紙

一幅



東魯翁二首懷紙 梅松紙

宣長翁肖像 自贊 義信画  
大平翁より謀る翁を付り

同 卍末七歌 聖物

宣長翁大平翁書翰

大字翁贊 十二月の鳥居彩色廿四枚  
表懸稿筆書

同 懷紙 表紙

同 詠豊公歌

同 富士西横物 大平翁画  
今石翁書

同 贊長種筆 椎画

右安田氏誌

一幅

一幅

一幅

一卷

一帖

一幅

一幅

一幅

一幅

目九

大平翁贊 山法師画

同 懷紙 表紙

同 鑿詠草 冬号紙

右上辻氏誌

宣長翁短冊 杜松紙

同 色紙 山号紙

右有山居誌

大平春庭翁飛詩 埋木短冊扇面張り

右世壽堂誌

大平翁贊 筆

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一挂

一挂

一幅

同短冊

時雨歌

一幅

同短冊

倉老歌

一幅

同色紙

雪舟歌

一幅

右社松舎荘

大平翁短冊

庭予歌

一幅

同

杉栂歌

一幅

右園本氏荘

大平翁贊

畫茶画白雪堂

一幅

右福山代藏

大平翁贊

富士山画

一幅

目十

真例翁詠草

朝書歌二首

一幅

右玉玉氏荘

大平翁贊

琴子小法所画

一幅

右日言屋荘

大平翁詠草

富士の形程をいへる蛤よそなを

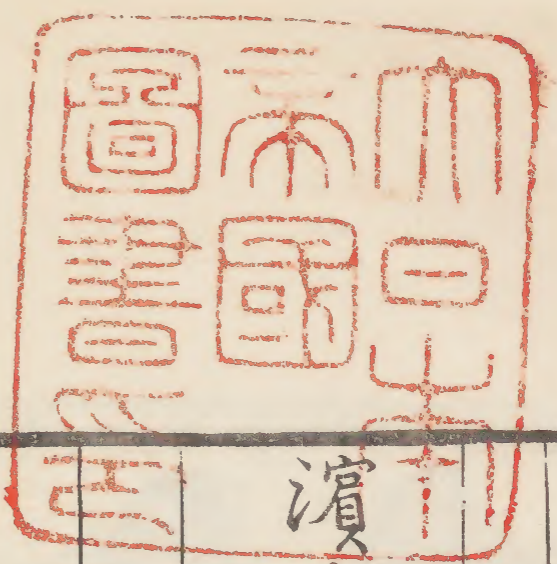
一幅

右紙糊菴藏

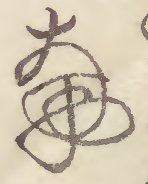
あのおもひのうらみ  
あはれはなほ  
あはれはなほ

紙糊庵弘白






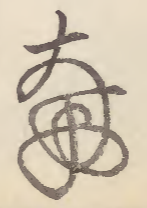
吹上菊

なほおほらひふをひ香ふのたふの葉は  
花も咲きよ吹上の幾久 

濱木綿

色香何ることたは花散かきとる  
もへあきよよ浦のを海ゆ 

白良濱

言は葉のその玉よせてまきとるの  
と海のを砂ふ光多へおむ 

大三十

ちか首を袖の縁落念のこの葉とくひまぐ地の中  
この葉の多とちか首を袖の縁落念のこの葉とくひまぐ地の中  
ちか首を袖の縁落念のこの葉とくひまぐ地の中  
ちか首を袖の縁落念のこの葉とくひまぐ地の中

嘉永四年亥十二月

奇刺大坂

末吉源兵衛

若山書林

阪本屋喜一郎

阪本屋大二郎

